

第2回 学校運営協議会 議事録

11月25日(木)

審議事項	内容 意見
<p>学校評価 中間評価</p>	<p>中間評価職員アンケートを実施した。</p> <p>① 教育課程等 主体的・対話的・深い学びに関する研究は、今年度始まったところであり、職員の中でまだ解釈が進んでいない。</p> <p>② 児童・生徒への支援 専門職との協働は進んでいる。また担任間の情報共有は高い達成意識を持っている。</p> <p>③ 進路支援 進路支援については、コロナ禍を踏まえ、説明会や保護者への情報提供において影響があった。</p> <p>④ 地域との協働 地域との活動は、コロナ禍の影響を大きく受け、活動の設定自体が難しかった。</p> <p>⑤ 学校管理 グループ業務の見直しや整理、校内の環境整備に取り組んでいる。</p>
<p>グループ業務 の報告</p>	<p>学習支援グループ 総務グループ 支援連携グループ 生活支援グループ 以上、4グループリーダーより、活動内容の報告</p>
<p>作業班視察</p>	<p>食品加工班、陶芸班の様子を視察</p>
<p>協議</p>	<p>・は、学校運営協議会委員の発言 →は、本校職員の発言</p> <p>&lt;コロナ禍の学校の対応&gt;</p> <p>・コロナ禍でできるだけ距離を離せと言われている中、小学校でも児童と教員の間を取りながらの活動を行っている。様々な場面でやりにくさを感じている。人材育成については、職人的というか個人研究で授業を極めることには課題を感じている。同僚性を大切にしたい。</p> <p>→本校では、コロナ禍の対応として、教室の中にいる人数を減らすなども行ってい</p>

る。音楽の授業は、半分に分けて入れ替えで行うなど。

→リモート校外学習の試みでは、児童生徒は、教室の外の世界を疑似体験ができるということを試行的に実施している。コロナ禍を逆手に取った発想である。教員が校外に、iPadとWi-Fiをもっていき、リアルタイムで教室とつなぐ。

→昨年は、リモートで美術館鑑賞として、学校ホームページで公開した。

- ・訪問級の児童生徒にとっても、画面を通しておともだちの様子がわかるということができる。進路学習にも活用してはどうか。事業所の様子などを見に行けない状況でも、見ておくことは大切である。

- ・高等部2年生にとっては、実習ができなかったことで、困っているのではないか。

→見学できないことで、ぎりぎりになって慌てるという状況がある。卒業後、生活介護では送迎は難しいと言われる。放課後等デイサービスが充実しているのだが、日中の過ごしに問題がある。また、入所施設が足りない。卒業後の居場所がないということは、無しにしたい。

- ・授業中で楽器などの道具を消毒する場合に、外部の障害者施設などに依頼してはいかがか。

→何でも教員がするのでなく、外部に委託するという発想は必要かもしれない。

#### <主体的・対話的で深い学び>

- ・主体的・対話的で深い学びは、保育園でも重要としている。主体的は、一人ひとりが「わかる」が重要。対話的はどのように考えるか。小学校では、高いレベルで、できているのではないかと思うが、養護学校などでは、どのように考えるのか。

- ・対話的とは、何かに出会うことではないか。出会ったことが学びになる。

- ・対話的は応答的とすればわかりやすい。

#### <地域とのかかわり>

- ・昨年から今年にかけては、地域自治体としても、人とかかわらない状況が続いている。そのことは、大きなストレスとなっている。地域としては、防災などに協力し合っていきたい。学校とも、もっと深くかかわっていきたい。

校長より

限られた時間の中で、活発な意見交換ができ、また、多くの意見をいただき、感謝申し上げます。